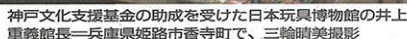


地域の活動 見つめて育む



助成先からほぼかにも感謝の
声が届いた。73年からラシッ
クを中心に「ササト」や音楽教
育に取り組むNPO法人ローゼ
ンビート（尼崎市）は「今の日
本社会ではまだまだ理解されな
い仕事。選んでいったんは、感謝
と誇りを持って歩んでゆきたい」。
「支援決定のメールを何
度も読み返したと喜べたのは、
たつの市でキャリアリースライ
フハウスを兼ねたカフェ空間を営
むガレリアアーツ&ティ。今後
の活動について遠方に暮れて
いたが、知らせを聞いて涙があ

り、今後も頑張って続けよう」と励
み、地域のアーティストを盛り
上げるために使いたいといふ。

■ ■ ■

「上からの」支援ではなく、自
分たちで地域の文化活動を掘り
起こして「そっと支援を申し出
た」と島田さんは話す。

文化芸術活動に対する公的支
援を巡っては、文化庁による継
続支援補助金の受け付けが7月
にスタート。京都市も「京都市
文化芸術総合相談窓口」を開設
し、支援金交付の事業を始めた。
コロナ禍によって文化芸術活動
の課題があらわになる中で、社
会が「文化」支援基金の活動は、社会
が「文化」をいうかものど捉え
え、どう育もうとしているかを
問い直している。【3輪軸美】

申請によるものではなく、「ちゃんと見てるよ」と信用できる人の目と耳を集約した助成はとってもいいシステムだと思う。

で生まれた。その精神を継ぎ活
動する中で、島田さんは「文化
芸術が行政に多くを依存せず、
市民の力で担うことが必要」と

ふれ希望が湧いた

神戸文化支援基金の前身である「亀井純子文化基金」は、目の当たらない文化活動に思いを寄せつつ早世した一女性の遺志